

2020年フードバンクくるめ 定期総会のご案内

フードバンクくるめは設立から4年めを迎えます。昨年度の総取扱量は24トンにも達し、市内外の42団体へ食品支援を行ってきました。新型コロナ禍の最中ですが、広い倉庫に分散して安全性を図りながら、昨年度の活動を総括し、新年度の活動を議論する定期総会を開催致します。

2020年4月29日(休) 午後2時から

会場：城島倉庫&事務所 (城島町城島689-2)

- ① 2019年度 事業報告書
- ② 2019年度 活動決算報告書
- ③ 2020年度 事業計画書 (案)
- ④ 2020年度 活動予算書 (案)
- ⑤ 役員継続提案
- ⑥ 支援団体等からの報告

Social Distancing



2020年度フードバンクくるめ役員 (案)

役職	氏名
代表	浦川 豊彦
副代表	前田 稔
総務	江頭 ひとみ
会計	馬場 浴文
監査	堺 英二郎

<3年めの到達点>

県下4番目のフードバンクとして2017年4月に発足したフードバンクくるめは、自前の城島倉庫&事務所(約500m²)を拠点にして、前年度(2018)に比べて、2019年度は財政以外のほとんど全ての面で活動規模を倍化してきた。

2019年度は、企業・団体32、個人22名から寄贈され、食品の総量は24トン(前年度は14トン、内訳は玄米・精米1.5トン・野菜1.7トン・果物0.9トン・冷凍食品1.9トン・水&飲料7.5トン・災害食0.3トンなど)と倍化した。ある小売りチェーン・みのう農民組合・丸永製菓・ベストアメニティ・日本アクセス・日本生活協同組合連合会などに加えて、特に昨年4月に発足した(社)福岡県フードバンク協議会の連携の11.9トン及び、おてらおやつクラブの0.3トンは継続性・食品の種類(肉類も含む冷凍食品など)の多様性と量の多さに貢献している。食品1kg当たりのコストは約67円(うち久留米市負担分23円、平均的な食品価格は約500円)かかった。

設備面では、2018年度までに揃えた中古プレハブ冷凍庫・業務用冷蔵庫・多数のクーラーボックスで、冷凍冷蔵食品の一時保管・配布が日常化した。懸念事項であった事務所環境改善として、2019年7月に事務所用のエアコンも設置され、夏場の活動が楽になった。また、この期間に、正会員数60(目標70)・団体会員数6(同10)に増加した。

食品支援先団体は、口コミや紹介で徐々に増え、42団体(前年度は30団体。子ども食堂14・地域食堂6・無料塾1・児童福祉施設1・障がい者福祉施設5・社会福祉協議会7・路上生活者支援団体2など)になった。各々開催頻度が異なるものの、支援対象人数の総計では子ども約1,000名、大人約1,000名を遙かに超えている。地域別では、久留米市に31団体、周辺の小郡市・広川町・吉野ヶ里町・鳥栖市・佐賀市・唐津市・筑後市・柳川市・みやま市に広がりを見せている。

また、個別の生活困窮世帯への支援では、直接の支援はできないものの、複数の団体を經由して行ってきた。第1は、地域の実状をよく把握している宮ノ陣子ども食堂などを經由して、数十世帯に間接的な支援を継続している。第2は、社会福祉協議会と生活自立支援センター經由で、久留米市・筑後市・広川町・柳川市・みやま市で行ってきた。第3は、教会と路上生活者支援団体を通じてのルートである。第4は、母子家庭の団体1(60世帯)とグループ1(4世帯)である。

福岡県とFコープの先導によって昨年4月1日設立された一般社団法人 福岡県フードバンク協議会は県内のフードバンク間連携のコーディネーター役を着実に果たしている。それによって肉類の冷凍食品を含む食品の種類と量が一気に増し、総収取量のほぼ半分を占めるに至った。

久留米市の2019年度補助金で、ロゴの決定、スタッフ・ジャンパー/ベスト、3種類の幟旗とポール・注水台を多数揃え、外から見える活動を始めた。支援先の子ども食堂や柿収穫体験会やボランティア・フェスティバル等で使用されている。

みのう農民組合と協働して3年目の農業体験会を行った。十連休の5月2日と3日は泊まりがけて、うきは市の佐々木農園で農業体験+田舎遊び+BBQの交流会を行い、大人19名、子ども30名が参加した。また11月の柿収穫体験会は3回行われ、子ども83名、大人33名、合計116名の参加があり、300kgを超える富有柿の寄贈を受けた。久留米市社協のマイクロバス貸与と助成金で補助された。

<見えてきた課題>

先進国に遅れること10年以上、ようやく国と自治体によるフードバンク活動支援が明記された食品ロス削減推進法が昨年5月に成立し、10月に施行されたものの、具体的な施策は何も決まっていない。毎年の足枷になっている倉庫&事務所の固定資産税=年間10.6万円も今年度以降も免税される気配は今のところない。

生活困窮世帯への間接支援として、主任児童委員と民生委員による支援は、地域の実情に合った極めて有効な支援ルートであるが、担当者の交代で途切れてしまった(西国分校区、合川校区)。新たな支援のルートを模索する必要がある。

これも懸念事項であったボランティアの確保であるが、火曜と木曜午後の定例活動に参加してくれるボランティアは次第に増えてきた。しかし、全ての平日に専念できる有償のスタッフ確保は、これからの財政上の課題である。

昨年未突如出現した新型コロナウイルスCOVID-19は、3月12日WHOによりパンデミックに認定され、瞬間に世界を席卷し感染者数は200万人を突破した。日本でも焦り続けていた患者数は感染拡大過程にある。検査制限で感染の蔓延状況がつかめないため、対策が後手後手にまわっている日本政府は、4月7日に福岡県を含む緊急事態宣言を発した。全世界で大幅な生活制限を余儀なくされている。外出制限・営業の自粛は広範な経済活動の低下を来し、戦後最大の恐慌が進行する中で、真っ先に非正規労働者や小規模な自営業者たちは、収入の激減・解雇・倒産の嵐に晒されている。そのため、生活困窮世帯の急増をもたらす、フードバンク活動への要望と期待が今まで以上に増している。

政府の唐突な全国一斉休校要請と緊急事態宣言に伴う休校では、軒並み多くの子ども食堂の開催が自粛される一方、フードバンクからの潤沢な食品提供を受けて、逆に平日の毎日居場所・学習指導・昼食提供(安武子ども食堂)を行ったり、無料もしくは格安の子ども弁当を提供(宮ノ陣子ども食堂、安武子ども食堂)した。この先、長期に渡る閉校に対応できるか、問われている。

2019年度 活動決算書

2019年4月1日から2020年3月31日まで

任意団体「フードバンクくるめ」

(単位：円)

科目	当初予算額A	決算額 B	差額 (B-A)	備考
I 経常収益				
1. 受取会費				
正会員 (59口)	350,000	295,000	-55,000	5,000×59
賛助会員 (10口)	20,000	10,000	-10,000	2,000×5口
賛助団体 (6団体)	40,000	120,000	80,000	20,000×6団体
2. 受取寄付金				
受取寄付金 (個人分)	100,000	130,000	30,000	カンパ他
受取寄付金 (団体)	100,000	129,937	29,937	安武子ども食堂100,000
3. 受取助成金・補助金等				
受取民間助成金 (久留米市社協)	200,000	200,000	0	はーとふる助成金
受取公的助成金 (久留米市補助金)	600,000	652,000	52,000	キラリ輝く市民活動助成金
4. 事業収益				
フードバンク事業収益	0	0	0	
5. その他収益				
受取利息	0	2	2	
雑収益	20,000	25,000	5,000	講演会講師料(2)
経常収益計	1,430,000	1,561,939	-131,939	
前期繰越額		180,324		
収入の部合計		1,742,263		
II 経常費用				
1. 事業費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
諸謝金	10,000	0	-10,000	
人件費計	10,000	0	10,000	
(2) その他経費				
賃借料	0	55,000	55,000	柿収穫体験会マイクロバス賃料
旅費交通費	20,000	3,100	-16,900	代表の出張2回分
会議費	10,000	0	-10,000	
車両費 (ガソリン・高速料・駐車料)	150,000	177,010	27,010	ガソリン代167,640、高速料8,270、駐車料1,100
諸謝金	0	14,000	14,000	農業体験会の車代5月1名と11月6名の2,000×7
備品購入費	300,000	280,000	-20,000	事務所エアコン設置
幟旗・ポール・注水台・折りたたみ椅子机	0	303,531	303,531	幟旗101,304、ポール台75,990、椅子机126,237
ロゴ入りジャンパー・ベスト	0	96,444	96,444	ジャンパー50,544、ベスト45,900
委託料	10,000	25,000	15,000	ロゴのデザイン料
その他経費計	490,000	954,085	-464,085	
事業費計	500,000	954,085	-454,085	
2. 管理費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
人件費計	0	0	0	
(2) その他経費				
印刷製本費	10,000	9,655	-345	新リーフレット2,500枚@プリントバック
水光熱費	220,000	255,489	35,489	電気代のみ
地代家賃	0	0	0	
雑費・消耗品費	80,000	71,187	-8,813	文具費6,490、食材・消耗品費64,697
通信運搬費 (電話ネット代、郵送・切手代)	100,000	82,378	-17,622	電話ネット代76,178、郵送・切手代6,200
営繕費	100,000	41,110	-58,890	精米機修理40,000、ミニパワーリレー1,110
固定資産税 (市税)	106,076	106,076	0	
保険料 (ボランティア保険)	10,000	3,850	-6,150	2020年度11名@350円
保険料 (火災・災害保険)	60,000	59,600	-400	台風被害対策
諸会費	0	22,000	22,000	県FB協議会・ボレボレ協賛金各10,000、ボラ連2,000
久留米市補助金返済分	0	20,000	20,000	2018年度市補助金一部返済金
図書・新聞費	0	15,952	15,952	農民新聞2018年度分7,400、2019年度分8,552
予備費	150,000	0	-150,000	
その他経費計	836,076	687,297	-148,779	
管理費計	836,076	687,297	-148,779	
経常費用計	1,336,076	1,641,382	305,306	事業費計+管理費計
当期経常費増減額	0		0	
III 経常外収益				
1. 固定資産売却収益	0	0	0	
経常外収益計	0	0	0	
IV 経常外費用				
1. 過年度損益修正損	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
経理区分振替額	0	0	0	
当期正味財産増減額	0	-79,443	-79,443	
前期繰越正味財産額		180,324		
次期繰越正味財産額		100,881		期末銀行残高100,881円

2020 年度 フードバンクくるめ事業計画書（議決）

2020.4.29

<概要>

発足4年目の今年度は、何よりも新型コロナウイルス・パンデミックに伴って急増する生活困窮世帯・子ども食堂・地域食堂への手厚い支援のため、より多くの企業・団体からの食品寄贈を受け、支援先団体へ継続的な食品支援を行う。

<分野別事業計画>

カテゴリー	具体的活動等	必要な人数・資金等
会員・募金	正会員80名・団体会員10口の獲得をめざす。	
食品寄贈企業・団体・個人	フードバンク間連携強化、フードドライブ拡大、食品関連企業・団体への戸別訪問強化	
助成金・補助金	久留米市社会福祉協議会(社協)助成金 福岡県フードバンク協議会 子ども食堂支援金 久留米市絆づくり推進事業補助金	久留米市社協助成金5万円決定済み 子ども食堂支援金申請50万円予定 市の助成金の今年度申請30万円予定
個別生活困窮世帯への支援	各自治体の社協や生活自立支援センター窓口への1週間程度・約10kgのフードパック提供 子ども食堂運営者や校区の児童委員・民生委員を通じてのピンポイント支援の拡大	箱詰め作業要員 数名
困窮大学生支援	一斉休とアルバイト先が急減し、実家からの仕送りが望めない大学生・院生を学生課と共同して食品支援	
定期活動日の拡大	現在の火・木曜日以外の月・水・金曜午後に城島倉庫&事務所を開け、支援先団体への便宜を図る。	ボランティアの確保、もしくは100万円以上の補助金によるパートの雇用
フードドライブ活動の普及	幟旗、新リーフレット、折りたたみテーブル、椅子を活用してフードドライブ活動を行う。	
農業体験	みのう農民組合との連携で、より多くの子ども食堂参加者などに柿収穫農業体験会を開催する。	事前連絡で社協のマイクロバスの確保 当日支援スタッフの確保
情報発信と共有	ホームページの充実 メーリングリストと支援者間でのLINEの活用	
食品の安全管理	肉・卵・鮮魚・生鮮食品の取扱い拡大 賞味期限の徹底、トレーサビリティの確保 倉庫の清掃と維持、冷凍・冷蔵庫の温度管理の徹底	福岡県フードバンク協議会が開発したフードバンク活動支援システムの導入
施設環境の改善	トイレの新設は次年度以降に	下水道負担金+トイレ新設(約100万円)
ボランティアの確保とボランティア団体との連携強化	シニアはもちろん、特に学生・若い世代・女性のボランティアの参加を募る。ボラ連(久留米市ボランティア連絡協議会)を通じての連携強化	引き続き、浦川は久留米市ボランティア協議会理事を務める。
NPOもしくは一般社団法人化と免税	今年度も断念し、不動産取得(県)税免除の条例化への働きかけ、固定資産税の減免への働きかけ	県FB協議会を通じて県議会、市議会への働きかけ
災害協定	大きな倉庫を活用し、久留米市と災害食備蓄を含む災害協定を結ぶ。	2018年1月12日に災害協定締結の申出済み。
隣接フードバンクとの連携	フードバンクさがとフードバンク大牟田との食品融通・情報共有体制を維持する。	
福岡県内フードバンク間連携	2019年4月1日に発足した(一社)福岡県フードバンク協議会の構成メンバーとして県内への食品の融通・情報共有などの連携を強化推進する。	引き続き、浦川は理事を務める。

2020年度 活動予算書

2020年3月31日まで

任意団体「フードバンクくるめ」

(単位：円)

科目	当期分A	前期分B	増減 (A-B)	備考
I 経常収益				
1.受取会費				
正会員 (70口)	350,000	350,000	0	
賛助会員 (10口)	20,000	20,000	0	
賛助団体 (8団体)	160,000	40,000	120,000	
2.受取寄付金				
受取寄付金 (個人)	150,000	100,000	50,000	
受取寄付金 (団体)	200,000	100,000	100,000	フクオカケンユウシチドウさま100,000入金済
3.受取助成金・補助金等				
受取民間助成金	50,000	200,000	-150,000	社会福祉協議会---一般補助金
受取公的助成金	250,000	600,000	-350,000	久留米市補助金申請予定
4.事業収益				
フードバンク事業収益	0	0	0	
5.その他収益				
受取利息		0	0	
雑収益	10,000	20,000	-10,000	講演会講師料1回
経常収益計	1,190,000	1,430,000	-240,000	
II 経常費用				
1.事業費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
諸謝金	10,000	10,000	0	
人件費計	10,000	10,000	0	
(2) その他経費				
賃借料	0	0	0	
旅費交通費	5,000	20,000	-15,000	フードバンク関連会合出席
会議費	0	10,000	-10,000	
車両費 (ガソリン・高速料)	200,000	150,000	50,000	1km20円、補助金を得た場合支給
備品購入費	20,000	300,000	-280,000	
委託料	10,000	10,000	0	
その他経費計	235,000	490,000	-255,000	
事業費計	245,000	500,000	-255,000	
2.管理費				
(1) 人件費				
給料手当	0	0	0	
人件費計	0	0	0	
(2) その他経費				
印刷製本費	10,000	10,000	0	
水光熱費	270,000	220,000	50,000	
諸謝金	0	0	0	
地代家賃	0	0	0	
雑費・消耗品費	80,000	80,000	0	
通信運搬費	90,000	100,000	-10,000	電話代、ネット代、ドメイン料、郵送費
営繕費	150,000	100,000	50,000	
固定資産税	106,076	106,076	0	0 内訳(土地68,701円、建物37,375円)
保険料 (建物損害、ボランティア)	70,000	70,000	0	0 損害保険65,000円、ボランティア5,000
会議費	0	0	0	0 事業費の会議費に集約
予備費	150,000	150,000	0	
その他経費計	926,076	836,076	90,000	
管理費計	926,076	836,076	90,000	
経常費用計	1,171,076	1,336,076	-165,000	
当期経常費増減額	0			
III 経常外収益				
1.固定資産売却収益	0			
経常外収益計	0			
IV 経常外費用				
1.過年度損益修正損	0			
経常外費用計	0			
経理区分振替額	0			
当期正味財産増減額	0			
前期繰越正味財産額	100,881			
次期繰越正味財産額				